

2013年度 立教SFR 国際会議助成成果報告書 (A, B, C)

1. 会議概要

会 議 名	和文	国際シンポジウム「幻の「源氏物語絵巻」をもとめて・続」			
	欧文	For `Maboroshi No Genjimonogatariemaki` II			
主 催	立教大学日本学研究所				
共 催	立教大学日本文学会 文科省科学研究費補助金基盤研究 (B) 「幻の源氏物語絵巻の文化史的意義」プロジェクト				
後 援	なし				
開催責任者	所属	文学部			
	氏名	小嶋 菜温子	印		
運営事務局	事務担当者	文学部			
	氏名	深津 行徳			
開催期間	2013年 7月 28日 から 2013年 7月 29日まで				
開催場所	立教大学 池袋キャンパス 太刀川記念館 3F 多目的ホール				
参加者数※1	学内	8名			
	学外 国内から招聘	9名			
	海外から招聘	3名	3カ国	合計	20名 4カ国
公開講演会等 参加者数※2	① 2013年 7月 28日 62名 1カ国				
開催日程		午前	午後	夜	
	第1日 7月28日	打ち合わせ会議	第一部 報告の部 第二部 コメントの部 第三部 討議の部	レセプション	
	第2日 7月29日	総括会議			
開催経費総額 (SFR 国際会議 助成で助成され た第三部のみ)	予算額	450,525 円		執行額	367,483 円

※ 1 参加者とは、会議において講演、パネラー、コメンテーター等の活動を伴う者をいう。

※ 2 一般に公開された講演会等に聴講のために参加した者。講演者、パネラー等は除く。参加者名簿を添付すること。

2. 開催趣旨概要

立教大学日本学研究所は、文学部の日本史学と日本文学専攻を中心に人文学系の領域を主体とし、海外の日本学に関わる研究者との学術交流の深化と発展を目的とし、特に海外の若手研究者の指導支援、研究環境の提供をも企図して設立され、学際的・国際的な活動を積み重ねてきた。2012年には、十周年記念国際シンポジウムを開催したばかりである。本会議は以上のような日本学研究所の歴史を踏まえつつ、さらなる発展をもたらすために企画された。本会議のテーマは、日本古典の傑作であり日本文化の根幹というべき『源氏物語』の一級絵画資料（幻の「源氏物語絵巻」と仮称）をめぐるものである。問題の絵巻は、近世初期に制作された豪華な作品であり、国宝源氏物語絵巻をはるかにしのぐ絵を含む大部の製作になる。物語本文を全文書写し、他に類のない絵画場面を描き出すその成り立ちに、国文学界・美術史学界双方からの注目が集まっている貴重な文化財である（現存の一部は、国の重要文化財に指定）。残念ながら同絵巻は国内外に散逸しており、現存遺品も欧米も含めた各所蔵機関・個人により分蔵されている。そのために、これまで総合的な調査や研究がなされないままであった。本会議は2007年シンポジウムの発展として、日本文化史の再構築に向けて、幻の「源氏物語絵巻」の全容解明のために関連分野の知見を結集するものである。立教大学を拠点としつつ、上記プロジェクトの連携研究者・研究協力者を核として、広く国内外の研究者にも呼びかけての意見交換を行う。海外からの招聘者はすでに協働を重ねてきた、美術史学研究者4名（エステル・レジェリー＝ボエール氏、渡辺雅子氏、メラニー・トレーデ氏、メリッサ・マコーミック氏）。また国内の関連研究者（国文学からは海野圭介氏、高橋亨氏。美術史学からは、吉川美穂氏、佐野みどり氏、稲本万里子氏、高岸輝氏、松岡知華氏、若杉準治氏）を招聘。あらたな知見を報告しあうとともに、上記の関連研究者による総合討議を徹底するべく、周到にプログラムを組む（第一部：報告、第二部：コメント、第三部：討議）。パネラー、コメンテーター、ディスカッサントが情報を共有し、有益な議論を行える構成に努める。

3. 国際会議の成果概要・今後の展望等

報告部門では、徳川本「桐壺」の意義についての吉川美穂氏の報告において基礎的な報告付けがなされた。京博本「葵」についての松岡知華氏の報告においては、メトロポリタン美術館本「葬礼図」の定位に関する新しい調査報告もなされ注目された。製作者と図様分析に関するエステル・レジェリー＝ボエール氏の報告においては、「源氏絵」を含む物語の絵画化への視座が示され有意義であった。近世初期の源氏学についての海野圭介の報告においては、広汎な享受史を背景とする『源氏物語』の受容の実態が詳らかにされ傾聴された。コメント部門では、上記報告を踏まえての、さらなる傍証や検証が加えられた。さらに最終の討議部門においては、総勢15名の専門家による徹底討論が行われた。討議部門だけでも2時間を費やし、シンポジウム全体では6時間にわたる充実した会議となった。残余の断簡探し、注文主・製作者・絵師完全なら解明には、今後もさらに調査の時間を要しようが、本シンポジウムはそのための大きな足掛かりとなった。本シンポジウムの計画段階ではとくに公開についての具体的なプランは立てずに置いたが、シンポジウムが成功裡に終了して、あらためてその成果の公開の必要を感じた。美術史研究と日本文学研究との相互乗り入れによる論集の形で、本シンポジウムの成果を広く世に問うことで、問題の豪華絵巻の文化史的な意義の解明のみならず、あのような絵巻を生み出した近世初期の京都文化圏の解明を目指すことの意義はきわめて深いと考えられる。この成果の公開が実現すれば、『源氏物語と江戸文化』に続く、立教大学を基盤とするプロジェクト活動の成果を示すこともできよう。日本文化史の再検討という大きな見通しのもとで、今回のシンポジウムの成果を形にしたい。

4. 会議の構成

(1) 学内参加者

氏名	所属・職名	会議における活動	内 訳
小嶋菜温子	文学部・教授	統括責任者・司会	文学部 8名
深津行徳	文学部・教授	事務局責任者、フロアコメンテーター	他学部 0名
沖森卓也	文学部・教授	事務局副責任者、フロアコメンテーター	名
後藤雅知	文学部・教授	事務局補佐、フロアコメンテーター	名
水谷隆之	文学部・准教授	事務局補佐、フロアコメンテーター	名
石川 巧	文学部・教授	事務局総務、フロアコメンテーター	その他 (0名)
水口幹記	文学部・助教	事務局会計、フロアコメンテーター	計 8名
鈴木 彰	文学部・教授	ディスカッサント	
変更内容 (氏名、不参加/追加の別) 【追加】鈴木 彰			

(2) 学外参加者 (国内、国外)

氏名	国名・所属・職名	会議における活動	内 訳
吉川美穂	日本・徳川美術館・学芸員	パネリスト	国名 名
松岡知華	日本・京都大学・大学院博士課程	パネリスト	日本 9名
エステル・レジエリイ ーニボエール	フランス・INALCO・准教授	パネリスト	仏国 1名
海野圭介	日本・国文学研究資料館・准教授	パネリスト	独国 1名
佐野みどり	日本・学習院大学・教授	コメンテーター	米国 1名
若杉準治	日本・京都国立博物館・名誉学芸員	コメンテーター	計 4カ国 12名
稲本万里子	日本・恵泉女学園大学・教授	ディスカッサント	
高岸 輝	日本・東京大学大学院・准教授	ディスカッサント	
高橋 亨	日本・名古屋大学・名誉教授	ディスカッサント	
メラニー・トレーデ	ドイツ・ハイデルブルグ大学・教授	ディスカッサント	
渡辺雅子	アメリカ・メトロポリタン美術館・元主任学芸員	ディスカッサント	
五十嵐公一	日本・兵庫県立歴史博物館・学芸員	コメンテーター	
変更内容 (氏名、不参加/追加の別) 不参加; メリッサ・マコーミック / 追加; 五十嵐公一			